

# 仕事人秘録

生まれはこの富士市産業支援センターがある静岡県富士市です。名前の由来は安産祈願や命名で知られる地元の富知六所浅間神社から3つの名前の候補を頂き、両親が相談して宗昭に決めたそうです。最近、母に改めて聞いたところ「響きが良かったからインスピレーションで決めた」と言っていました。3歳違いの妹がいます。

**教育熱心な母の存在が大きかった。**

孟母三遷でしたね。テストの成績が悪いと、どこからともなく大手企業の工場に勤める理系出身の若い社員を家庭教師として探ってきて、勉強する環境を作ってくれました。「人と同じようなことをしてい

## 行列のできる経営相談所 ②

富士市産業支援センター長  
小出 宗昭氏



小学校時代には地元の剣道大会に  
出場した（前列右から3人目）

## 母「人と同じでは駄目」

縁で来ていたそうです。その時ばかりはお寿司屋さん。の店先は黒山の人だかり。「地元が生んだスーパースター」的な存在でした。日常の光景が実は日常では無かったことを子どもは知っています。公害という社会問題への関心は今の仕事の原体験でもあ家からは富士山がよく見え、しかし海側の風景は違います。工場の煙突からは白い煙が立ち上り、紙の原材料となるパルプが蒸されると何とも言えない強烈な臭いが漂っています。自宅の裏を流れる和田川は「川の色が1日に7回変わる」と言われましたが、それは近隣の工場の廃水のせいだったので。でもこれが日常の光景だったので疑問に思っこともありません。それが一変したのは地元の田子の浦港で深刻化するヘドロ汚染について報じたテレビ番組を見た時です。子ども心に「そんなでもないことになっていない」と思ったのです。1960年代の後半だと記憶しています。公害という言葉は知っていましたが、川崎や四日市のような地域のことまで遠い存在だと思っていました。それが我が町にも存在していることにショックを受けました。

は駄目」。そんなような言葉も母から何度か聞いたことがあります。

いまの生業（なりわい）となっている中小企業の経営支援もその流れからきています。当時、人気絶頂のドリフターズのリーダー、いかりや長介さんが時折、スケジュールの合間を縫って近所のお寿司（すし）屋さんに顔を出すことがありました。

映画「ゴジラ対ヘドラ」にも衝撃を受けましたね。田子の浦港の汚染された海から生まれた怪獣ヘドラとゴジラが対戦する映画です。子どもでしたが「何とかしないと」と感じました。

高度経済成長の真っ最中、製紙工場に勤めていたのが

デビュー前にこの地域の

たので疑問に思っことも

地域再生に取り組むいまの原体験になっているような気がします。